

KATSUMI NAGASHIMA



“Road”

2018.6.19 tus - 7.7 sat

Gallery E&M nishiazabu

KATSUMI NAGASHIMA

“Road” . . . 道 .

私は1980年の27歳の時に写真家に転向して、雑誌や広告写真を撮っていた。写真家としての一つの転機は1982年から海外ロケに行くようになった頃だった。滞在先で朝食前の早朝に、二度と来る事が無いかも知れないという思いから、自分の足跡を記録したいと思い、カメラ片手に散歩し写真を撮り始めた。記録として撮り始めたのがいつのまにか作品撮りになっていた。初期の頃はニコンFM2とコダクロームで、その後ライカR4で仕事の写真と区別する為にTri-XやT-MAX等のモノクロフィルムで撮るようになった。そうして撮り始めたのが後の「散歩の途中で…」テーマのシリーズの作品です。その後、カメラもM型ライカに変わり、パリに拠点を移した1989年からはモノクロで作品を撮るのが私のライフワークになった。今迄、「散歩の途中で…」として発表してきた作品は、「Tonnerre」「Péruges」「もう一つのパリ」「クルマのある風景」「Italiana」「Cesta do Prahy」「Souvenir」「Montana」「chute de neige」などの都市や街並、そこに暮らす人々、クルマや風景を主なモチーフにしたものだった。このシリーズも今回で10回目となった。他にも纏めただけで未発表の作品もまだ10作品以上あるが、中でも私が一番多く撮ってきたのは道の写真でした。散歩をするには必ず道を歩く、地図を片手に街の外側に行くことが多かった。自分が今立っている道、今歩いてきた道、これから向かう道、今いる場所から見える道、クルマから降り立った道、「道」を撮った写真が一番多い。そのどれもが印象的で今見返しても、いつ、何処で、誰と、一人で、と、思い起こすと懐かしい「道」なのです。「散歩の途中で」はこの「道」から始まったと言っても過言では無いと思う。一つの区切りとなる、10回目の「散歩の途中で」として発表する作品は、この「道」でと以前から決めていた。今迄にセレクトしてあった写真はカラー・モノクロ合わせて約600点程と余りにも多くの点数になっていた。「散歩の途中で…Vol-X」は、その中からセレクトした作品の第一弾として「Road . . . 道 . Vol-1」を展示致します。この30年以上撮り続けている「道」の写真は、私が写真家として歩んできた、そしてこれからも撮り続けるであろう、無限に続くモチーフなのかも知れない。

永嶋勝美



KATSUMI NAGASHIMA / 永嶋勝美

1953年2月東京都出身

デザイナー、アートディレクターを経て、1980年写真家に転向、ファッション・静物を主とした広告写真を手掛ける。1982年より海外を歩きまわり作品を撮り始める。1989年より一時期パリ郊外に住み、パリ市内やフランス各地を「散歩の途中で…」をテーマに撮影を始める。1992年より写真作家活動に専念しオリジナルプリントの制作と個展やグループ展に積極的に参加し始め、作品集カレンダーの制作も手掛ける。また、同時期よりデジタルフォトを本格的に始める。1996年よりDGSM Printの研究に取り組み2011年にその写真技法を公式に公開し、写真雑誌等への執筆、APIS等の国際シンポジウムや学会などで講演を行い、ワークショップ等を始めとする普及活動を開始する。現在は写真作家活動を軸に、DGSM Printのプロデュース、クリエイティブディレクター、テクニカルアドバイザー、プロ写真家向けセミナー&講習会の講師、トークショー、各種講演、各種メディアのゲスト出演、等。

また、日本を代表する写真家が毎回40名以上参加している「monochrome展」を主催し今年で17回目の開催。「DGSM Print 7人の写真家展」等も主催している。

Gallery E&M nishiazabu

ギャラリーイー・エム 西麻布

2018年6月19日(火)~7月7日(土)

12:00~18:00(日・月曜日休館) 入場無料

東京都港区西麻布4-17-10

03-3407-5075

